

令和5年度

上田市立第三中学校 学校自己評価シート

上田市立第三中学校

学校教育目標		中・長期的目標		総合評価						
○自主性を養う。 ・自らより高い価値を創造しようとする力をつける。		挨拶の行き交う学校に 清掃に打ち込む学校に 学習に集中する学校に	歌声の響く学校に 時を守る学校に 読書に親しむ学校に	今年度、本校の教育目標「自主性を養う」生徒会スローガン「It's 笑 time」のもと、日々の教育活動に取り組んできた。挨拶や清掃、合唱の向上に取り組むとともに、生徒のアイデアや創造力を生かした生徒会活動を企画・実施した。また、日々の授業や様々な生徒支援・生徒指導を通して、学力向上や時間を守ること、図書館の利用などに取り組んできた。その結果、「学校生活は楽しい」「授業が分かりやすい」と答えた生徒・保護者は昨年度よりも増加した。不登校の生徒も減少傾向にある。一方で、様々な理由から不登校になったり、学校生活に困難を抱えたりしている生徒がいる。引き続き、来年度もよりよい授業と学級・学年・学校運営を目指すとともに、保護者や地域の方々と連携しながら、多様な個性やニーズをもつ生徒にきめ細かな支援を行っていく。						
(願う生徒の姿)		令和5年度 学校重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる生徒		①生徒の「主体的・対話的な学び」「個別最適な学び」を保障し、生徒が知識や技能を活用する力を育成する		○90%を超える生徒が、授業に前向きに取り組んでいる。 ○80%以上の生徒が、「学校は楽しい」と感じ、学校生活に前向きに取り組んでいる。 ◆「学校が楽しい」「安全・安心な環境ではない」と感じている生徒の割合は10～15%程度である。 ◆保護者の方々の中にも、更なる授業改善や学校生活の改善を求める方がいる。			○			・さらなる授業改善とよりよい学級・学年・学校運営を行う。 ・生徒一人ひとりのニーズや気持ちに寄り添い、丁寧な声かけや対応を続ける。 ・学校だよりやホームページを軸に、学校開放や懇談会、PTA活動を通して、学校の様子を保護者や地域の方々にお知らせする。 ・学校運営委員会や学校評価を通して、保護者や地域の方々からご意見をいただき、本校の教育活動の改善に生かす。
		②すべての生徒が個性を伸ばし、自分らしく生きることができる学年・学級づくりに努める					○			
		③学校運営委員会や学校評価を通して、保護者、地域と協働して学校運営を進める					○			

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(成果○ 課題◆)	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学習指導	学習課題の明確化	本校では、学習課題が明確に示され、全体的にわかりやすい授業が行われているか。	○どの学年でも、「分かりやすい」「やや分かりやすい」と答える生徒が増加し、「やや分かりにくい」「分かりにくい」と答える生徒が減少した。 ◆「分かりにくい」と答える生徒がいる。2年生の割合が若干多い。		○			・引き続き、授業改善に取り組む。研究チームを設け、チームごとに授業研究を進めたり、校内・校外の研修に参加したりして、専門性の向上とともに、授業力の向上に努める。
		家庭学習の定着	本校では、家庭学習やJIGAKU・スイッチなど、生徒が自主学習に取り組むための指導はできているか。	○全体的に、自主学習に取り組む生徒が増加した。 ◆自主学習に取り組む習慣が十分でない生徒も2割弱いる。			○		・定期テストやASAGAKUと連動した家庭学習を構想し、生徒が努力の成果を実感できるような家庭学習のあり方考える。 ・定期的に「まなび場」を活用し、効果的な家庭学習を模索する。
		ICTを活用した授業づくり	本校では、生徒の話し合い活動やICT機器を生かした深い学びを実現できているか。	○全校の80%以上の生徒が、「ICT機器で学びを深めている」と答えている。 ◆教員によって、ICT機器の授業での活用の仕方に差がある。			○		・ロイノートの導入が進んでいる。職員研修を重ねて、ロイノートをはじめとしたICTを活用した授業を積極的に行う。そして、対話的な学習を進めていく。
		進路学習	各学年の生徒の実態に応じて進路学習(1年:地域学習 2年:職場体験 3年:進路学習)を行っているが、生徒が将来の進路について考えることに役立っていると思うか。	○90%以上の保護者・生徒が「進路について考える機会がある」と答えている。 ◆生徒の実態に合った進路学習になっているか、検証が必要。			○		・総合学習の年間計画にそって学習を進める。本校では「地域」に即した総合学習を行っているが、より多様な学習を構想し、生徒の進路実現を支援していく。
	生活・生徒指導	基本的生活習慣の確立	本校生徒は充実した(楽しい)学校生活を送っていると思うか。	○「学校が楽しい」と答える生徒は、昨年度に比べて増加した。 ◆不登校の生徒は減少したものの、ゼロではなく、対人関係や学習関係などに不安を抱える生徒もいる。			○		・「ほっとルーム」を設置したことにより、不登校傾向の生徒が少しずつ登校して学習や様々な活動に参加できるようになった。教育相談、保護者とのきめ細かな連絡を通して、「学校が楽しい」と思える生徒を増やしていく。
		気持ちのよい挨拶	本校生徒は、気持ちのよいあいさつや会釈ができていると思うか。	○「気持ちのよい挨拶ができている」と答えた生徒の割合が80%以上だった。 ◆生徒同士や地域でのあいさつをさらに向上させていきたい。			○		・生徒会活動「アイ活」(あいさつ活動)「盛活」(盛り上げる活動)を通して、あいさつ向上につなげていく。生徒会の取り組みを継続するとともに、まず職員からあいさつすることを心がけたい。
		清掃・環境整美への取り組み	本校の教室や校舎内は、きちんと清掃し、整理整頓されていると思うか。	○「清掃に一生懸命取り組んでいる」と答えた生徒の割合が9割以上であった。 ◆ロッカーの整理整頓が課題。生徒により取り組みに差がある。			○		・生徒全員が「時間いっぱい」「隅々まで」清掃をする意識をもたせたい。担任を中心に、掃りの会等でもよくできている生徒を取り上げ、広める。来年度は生徒集会で生徒により清掃の見本を示す。
		安全で安心できる学校	学校生活は安心・安全(過ごしやすく・危険がない)な環境であると思うか。	○「安心・安全な学校である」と答える生徒が8割以上であった。 ◆「D あてはまらない」と答えた生徒の割合がわずかに増加した。			○		・全職員による生徒支援と生徒指導により安心安全な学校を目指す。施設や物品の破損は減少傾向にあり、地域に貢献できる行事、道徳の授業などあらゆる活動で適切に指導・支援する。
		思いやりの心	本校生徒は思いやりのある行動ができていると思うか。	○生徒、保護者ともに、肯定的な評価の割合が80%以上である。 ◆「全く当てはまらない」の回答の割合が0ではない。			○		・学年によって差はあるが、「思いやりのある行動ができている」と答える生徒が多い。しかし、心無い言動や行動で傷ついている生徒がいる。生徒指導係会等でも対応を検討し、指導する。
		時間・服装などの決まりを守った生活	本校生徒は登下校時刻を守り、整った服装を心がけ、健康状態に気を配るなど、自身の学校生活を自己管理していると思うか。	○80%以上の生徒は服装や健康、時間に気を配っている。 ◆服装や時間の管理で繰り返し指導が必要な生徒がいる。			○		・「学校のきまり」を年度当初に職員間で共有し、指導を徹底する。全職員で指導にあたる。生徒が納得する伝え方で伝える。生徒会とも連携し、年間を通して繰り返し指導していく。
		生徒会活動	資源回収や当番活動などの生徒会活動は、自主的で有意義なものになっていると思うか。	○80%以上の生徒が肯定的に回答している。 ◆生徒一人ひとりが自主的に活動に取り組めるよう、職員や生徒同士の呼びかけが必要である。			○		・生徒会を中心に、生徒会目標に沿った魅力ある生徒会活動を企画する。地域と連携した活動を企画したり、地域に貢献できる活動を行ったりして、生徒がさらに自主的に取り組める生徒会活動を目指す。
		部活動	【本校生徒が部活動に参加しているご家庭のみ】本校生徒にとって部活動は、自主的かつ充実したものになっていると思うか。	○生徒も保護者も、肯定的な回答の割合が多い。 ◆部活動の加入率が減少し、心身の向上や人間関係の向上の機会が減少している。			○		・市のガイドラインに基づき、休日部活の地域移行を進める。大きな変革期だからこそ、勝利至上主義の脱却や体罰の厳禁を徹底し、生徒が意欲的に取り組める部活動を目指す。
学校運営	保護者・地域との連携	学校開放日・体験入学等の実施	年3回の学校開放日や体験授業(新入生)等を通して、本校への理解や関心を高めてもらうことができたか。	○体験授業では、1学年生徒が趣向を凝らした発表と演出で、新入生の期待を高めた。保護者の方々からも、肯定的な回答を多くいただいた。 ◆部活動地域移行について、どのように進めか心配される保護者もいた。			○		・多くの保護者や地域の方々にご来校いただき、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけたよう、日々の教育活動を充実させるとともに、丁寧できめ細かな説明に努める。
		情報の発信	学校だよりや学年学級だより、ホームページ等を通して情報提供し本校の取組に関心を高めてもらうことができたか。	○部活動の成績や各種表彰の様子を地域の方々から要めていただいた。 ◆「学校の様子が分かって嬉しい」という言葉とともに、「クラスの様子が伝わってこない」という保護者の声もいただいた。			○		・学校だよりやホームページに、学校の様子を載せている。今後継続していく。合わせて、学級通信・学年通信で学校の様子をきめ細かに伝えていくことを、学校全体で行う。
		地域との連携推進	地域と連携し、学習活動や生徒支援を工夫することができたか。【「三中応援団」、学生ボランティアの活用】	○放課後学習「スイッチ」に継続して参加し、学力を高めた生徒がいた。 ◆「スイッチ」や朝学習「ASAGAKU」への取り組みが教科によって差がある。			○		・「ASAGAKU」に改称し月曜朝の学習に取り組んできた。今後はテストやスイッチと連動させる。合わせて、授業でのサポートをお願いすることも検討し、三中応援団の方々や学習を中心に連携していく。